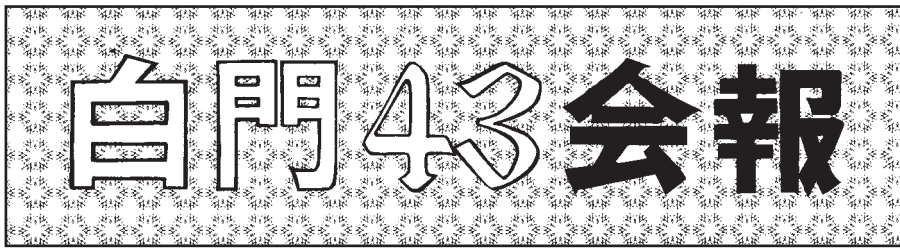


ホームページご案内

白門43会ホームページを御覧ください

「白門43会」で検索できます

詳細は第2面に掲載



発行所 中央大学学員会白門43会

編集・発行人 清水 正
電話 090-3699-9580
メール tds\_shimizu@yahoo.co.jp

新しい会費制がスタート
総会は初の書面審査で

総会は書面審査で

2020年(令和2年)の白門43会第26回定時総会・講演会・懇親会は7月3日(金)に東京の上野精養軒で開かれる予定であったが新型コロナウイルス感染症の感染を防ぎ、他への悪影響を及ぼすおそれがあるとして中止することに決定、議案審査は書面審査による議決権行使方式により実施、あわせて開かれる予定であった講演会・懇親会は中止となった。

1995年白門43会の創立以来、定時総会が中止となつたのは初めての経験である。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は19年9月末に発生以来全世界に猛威を及び、いまや感染者の数は2000万人を数え、われわれの周囲のあらゆる分野に影響を及ぼしている。なによりも毎日が健康で過ごすことができては素晴らしいことであり、これからも活発な活動を続けてまいりたいと思

います。第25回総会で承認された新しい会費制度がスタートいたしました。予想を超える多数の会員の皆様から早々と年会費をお納めいただきまして本当にありがとうございます。今後も貴重な財源を効果的に活用し、ご満足いただける同期会

響を与え、経済社会に大きな支障をもたらし、行動のすべてに制限を余儀なくされている。白門43会においては今最も大切にすべき「生命・健康」を守るため会員の皆様に集合していただく形での総会を中止せざるを得ないという結論で3月末の時点で総会を書面審査でおこなうことに決定し、そのための準備をすすめてきた。

その後すみやかに準備にはいり、ホームページに告知、また5月29日に全会員へ書面審査の議案書を送付した。議案書の内容は ①事業報告 ②収支決算報告 ③事業計画案 ④予算案

同封した返信書による集計の結果

白門43会会長 清水 正

発送数 339人
返信数 207人
議案に賛成、手続きの会長委任に賛成 204人

となり、会則第9条、第4項の定めにより承認され、この結果を7月14日に全会員へ郵送により通知した。承認された議案 第1号議案 2019年度事業報告 第2号議案 2019年度収支決算報告 第3号議案 2020年度事業計画案 第4号議案 2020年度予算案

新会費制がスタート
このように第26回定時総会は完結したが並行して19年総会で承認された新しい年会費制度がスタートしている。20年の年頭からはやば

眼である「懇親」の観点からも寂しい状況が現在まで続いております。このような災害は今までは地域、年齢などで限定的なものでした。これからはあらゆる世界が対象であり「ひとごと」ではすまされません。20年2月の当会の「新春の集い」開催直後から世界は新型コロナウイルスの感染により、

その影響はきわめて大きく、私たちのあらゆる生活・行動におおきな制限を受けてまいりました。3月の歌舞伎鑑賞、4、6月の役員会などが中止され活動の主な

やと会費の振り込みが始まり、多数の会員からの支払いがあった。43会の会計はこ

し、コロナ禍は予断をゆるさぬため、例年開かれていたホームカミングデー、箱根駅伝予選応援会応援などが中止となっている。2021年からは完全な感染防止対策を整え、別掲の新春の集いをはじめ通常の活動をしてゆく予定である。

活動が再開される
新型コロナウイルス感染症の弊害で全国的に諸行動が制限される中、白門43会においてもしばらくの間活動を自

粛していたが、緊急事態宣言の解除、また新規感染者数ののはげしい増加がみえないこととして社会活動の制限が少しずつ解除されていることなどをもって、活動を再開することにになり、8月の定時役員会から通常の活動にもと

秋には43会のゴルフコンペも開かれ、山形への旅行会もおふたりのホスト会員の尽力により楽しく開かれました。願わくは2021年という良い年をむかえ、2月の新春の集いが賑々しく開かれることを願っております。

8つの大テーブルに会員が着席、後澤正昭さんの司会で宴がスタートした。小塚さんのリードで校歌「草のみどり」斉唱に続いて清水会長のご挨拶。そして遠方からの参加者、ひさしぶりの参加者の挨拶をいただいた。毎回の催しに久しぶりの参加者があるのはうれしいことである。しめくりにホームページ担当の三沢さんがHPの最近の状況と毎週1回は目をおとせたいとの説明があった。



玉澤さんの音頭による乾杯に続いて東天紅の美味しい中国料理をいただきながら宴が続く。ゲストのつる子さんも途中からラウンドに参加、会場を盛りあげてくれた。

新春の集いを開く

林家つる子さんの落語を堪能

2020年の新春の集いは2月7日(金) おなじみ東京の中国料理・東天紅上野店で開かれ、遠隔地からの参加者、久しぶりの参加者

などを含め72名が参加、にぎやかな宴が催された。宴会にさきだつて恒例の散策会が行われ、有志はいま梅の花が満開の湯島天神を訪ねた。

見事なまでに開いた紅白の梅を楽しみ、参加者一同が東天紅に集合した。今日のゲストは落語家・林家つる子さん。中大文学部



林家つる子さんの名高座に聞き入る43会員

2月22日(金)に新春の集い
藤間流の日本舞踊をどうぞ

白門43会の新春の集いは二〇二二年二月十二日(金)、東京の中国料理・東天紅上野店で開きます。

会場となっている東天紅は中国料理の老舗であり、学員会の多くの支部の皆様も利用しています。上野公園と不忍池の眺望を楽しみながらの宴にぜひご参加ください。中国料理は各自個別の皿に盛り付け、宴会場やビルの中は完全な感染対策がなされています。

毎年好評となっているイベント、今回は日本舞踊・藤間流の藤間浩菊さんにすばらしい踊りをご披露いただきます。どうぞご期待ください。

※新型コロナウイルスの感染状況により内容などに変更が生じる場合があります。あらかじめご承知ください。

# 白門43会ホームページへの誘い

白門43会のホームページを

ご存じでしょうか。43会の組織の紹介や会員たちの活動・生活を紹介します。ホームページともいえます。今までの閲覧の件数は5万6千回を数え、いまや43会の活動情報提供に欠かせない存在となつてきました。使いかた、見方はじつに簡単で、いつでもどこでも（スマホでも）みることができます。

## 白門43会について

2018年に体裁と内容が大幅にリニューアルしています。すでにご覧になっていないかたはもう一度今回のこのページを見てください。きっと新しい発見があるでしょう。

43会ホームページは株式会社 ソラ・コミュニケーションズ様の制作・管理により運営されています。中心となる役割を担っていただいている平方麗様にご寄稿をいただいています。

ホームページで何が分かるのか  
白門43会のホームページには会員の皆様の役に立つ情報

# 白門43会ホームページ 最近のトピックス

- 11月2日 随想69・ゴホン 歌代雄七さん
- 10月26日 第44回ゴルフ大会の結果
- 19日 43会ホームページ雑感 石橋忠雄さん
- 5日 随想68・盛岡中学 歌代雄七さん
- 1日 歳時記・十五夜 三沢充男さん
- 9月24日 海戦における軍艦と提督との因縁 八東一郎さん
- 17日 歳時記・彼岸花（曼珠沙華） 三沢充男さん
- 14日 ギャラリー 塩野恵子さんの作品（絵画）
- 7日 随想67・酒 歌代雄七さん
- 1日 頭にくる電化製品 八東一郎さん
- 8月24日 歳時記・ひまわり 三沢充男さん
- 3日 随想66・おなら 歌代雄七さん

## 会員日より

多くの会員の方からのお便りが掲載されています。

## 思い出

喫茶室……歳時記、最近読んだ本、伝統芸能など最新の記事が載っています。

## 思い出

駿河台キャンパス、後楽園キャンパスなどの思い出深い写真が掲載されています。

## リンク

中央大学、中央大学学員会また先輩会の42年白門会、後輩会の白門44会などの様子がわかります。

## 活動

スケジュール、最近の活動、役員会の議事録、同好会など今の43会の活動の状況が分かりやすく記述されています。

総会や懇親会、新春の集いなどの写真も見る事ができます。

## 白門43会への記事の投稿の仕方

次の2通りの方法があります。皆様の投稿をお待ちしています。

文章や写真をメールで送るときは、次のアドレスへお願いします。

H P 委員 三沢充男  
hisawa.nisuo@grape.plala.or.jp

H P 委員 八東一郎  
03-3481-2427  
T-111-0036 東京都台東区松が谷3-10-17

投稿したいけれど文章を書くのが苦手な方は、次へ相談ください。

# 第44回ゴルフ大会を開く

白門43会のホームページが「グーグルやYahoo!などの検索エンジンで見つかる」ように更新されています。

第44回白門43会ゴルフ大会を2020年10月20日（火）に恒例の千葉原袖ヶ浦市のカメリアヒルズCCで開催しました。

コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、開催案内を送付した所、締め切り日は予想を遥かに上回る25名のエントリーがあり慌ててゴルフ場に組数の追加をお願いする盛況であったが、途中で2名のキャンセルがあり最終的には6組（23名）で過去最多の人数で開催する事が出来ました。天候も参加者の願いが叶い前日までの長雨も上が爽やかな秋空のもとで楽しくプレーすることが出来ました。



今回も遠方の山形県から小田治一さん、新潟県から

# 白門43会の皆様に

株式会社ソラ・コミュニケーションズ 平方麗

白門43会支部の皆様、いつも大変お世話になっております。東京高田馬場で、編集出版や企業広報支援、コンサルティング等を行っている株式会社ソラ・コミュニケーションズと申します。代表の中川順一は1983年（昭和58年）中文学部卒です。

弊社は以前より中央大学・学員会関係のお仕事をしてきた縁から、2018年の白門43会50周年祝賀会にお声がけいただき、また現在はHP制作・管理のお手伝いをさせて頂いております。

50周年では、当日のスライド映像の制作放映、パンフレット制作をさせていただきました。お手伝いする中で、折に触れて、皆様の母校への熱い思い、そして同窓の仲間との絆を強く感じ、当日はとても感動し、実は裏で少しうるうるしていました。

その後もHPリニューアル制作のご依頼をいただき、HP委員長である三沢様と連絡を取りながら、楽しくて見やすいページづくりができました。日々お手伝いしております。三沢様の見事な手腕により、更新頻度も高く、と

神林俊昭さん、愛知県から合津五郎さんが参加して頂き、また半田哲也さんが初参加して頂くなど43会ゴルフ同好会の参加者も回を重ねるごとに参加者が増えており、幹事同大感謝しております。

ゴルフ場の対応も素晴らしく、また全員故障者もなく楽しくプレーできたことは主催者として大変うれしく感謝している。

成績発表について今回はハズレに戦いながら4回目であるが毎回違う人が優勝しており今回も意外な方（失礼）が初優勝され、この話

でも楽しいページになっていて、まだ見たことがないという会員の方は、ぜひ覗いてみてください。いちファンとしても、皆様の投稿を楽しみにしています。

弊社はこれまで、さまざまな支部のお手伝いをさせて頂いてきましたが、その中でも白門43会様は、明るく優しく、そして大方な方が多いという印象があります。会員の皆様とお話していると、楽しくてつい笑いしてしまうことばかりです。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、行事やイベントがなかなか開催できず、口惜しい思いをされていること存じます。ですが皆様の母校愛や絆、そして明るさでこの苦境を乗り切り、笑い声を絶やすことなく、元気に過ごしていかれることと信じております。

このたびは貴重なスペースをいただき、清水支部長をはじめ、皆様にお礼申し上げます。今後も私たちがお手伝いできることがございましたら、何なりとお声がけください。

上位の入賞者は次のとおり  
優勝 龍門 海行  
準優勝 島田 恭輔  
3位 富岡 克昭

バストグロス賞 島田 恭輔 (グロス85)

最後に白門43会ゴルフ同好会の皆様も今年で大多数の方が後期高齢者に仲間入りされると思いますが、健康寿命を保つて出来るだけ長く43会ゴルフ大会が続けられる様、各自が健康に留意してご自愛下さい。 原田六生

# 通用口 (第二回)

会員・沢口みつを

そのケンジがこの日はどういわけかサプロウに擦り寄り、抱擁するような仕度で殻の上を這い上がった。いつもに似ずどうしてこんな真似をするのか訝しく思っている。「サプちゃん、オレたちは仲良くだよ」と、気持悪いような優しい口調でいった。  
さては……とサプロウは思った。こいつオレと交尾をしたいのではないか。蝸牛は雌雄同体で両性の生殖器を持つが、自分だけでは生殖能力がなく、別の個体と交尾をしないと産卵できない。だがその推測は外れた。ケンジはサプロウの殻の上にくっついていた粉チーズを食べたかったのだと聞いた。あのことというものが、すぐその魂胆に気がついた。あの粉チーズの在り処に案内させようとしたのだ。そうは問屋が卸すものか。こっちは十分なカルシウムを摂れば即、成長が早くなり、奴の図体を凌ぐ身体を手に入れることができるのだ。  
サプロウは黙ってケンジの元を離れようとした。彼は何か言うかと思っていると、一瞬躊躇する素振りを見せはしたが、そのあと意外にも簡単にサプロウを離れた。そういう風にされると却って気持ちが悪い。何か裏があるに違いないと思う習性が身についたしまったらしい。  
自分の棲みかについてからそのことが頭を離れなかった。彼はあの段階では力づくでサプロウを抑え込むことができたはずだ。それでケンジの音も言わせず粉チーズの所に案内させることができたろう。何故ならば、強硬手段に

段に出られたらこちらの身体が痛くって言うことを聞かざるを得なくなるのだ。ではどうして彼は簡単にこっちを離したのか。ひとつ考えられることは、この次にサプロウが例のゴミ箱の所へ行くときに、こっそり後をつけてきて所在を見つけてしまおうという方法だ。これなら強硬手段をとらないだけに、他の誰からも非難を受ける心配がなく、この世界も人間たちがうるさくなって、表立った暴力行為などに訴えらる「コミュニティ内での評価が落ちて自分が居づらくなる。ケンジはこいつを割にしてさういふ所に見える割にはさういふ所を気にする繊細な神経も持ち合わせている奴なのだ。いきおいやり方は陰湿になってヒトの目に付かないところで嫌

ながら隣家への通用口ともいえる穴の方へ向かって進んだ。彼は自分の棲みかから真つ直ぐその穴へ向うようなことはしなかった。慎重に回り道をして誰にも気付かれないように配慮したのであった。だが彼は途中まで来たところであらうと恐ろしい想像をしてしまった。人間という動物は何か恐ろしい思いに憑りつかれるとその想像を益々膨らませ、そんな苦しみを得ないかと否定しようとしても、なかなか虚構の世界から飛び出すことができなくなってしまう。サプロウの恐ろしい想像とは、ケンジは隣家との通用口の穴の存在をすでに知っているのではないかということである。蝸牛にして餌を探すのは死活問題なのだ。ケンジも自分と同じようにいろいろな所を動き回っている。そうすればこの家の庭がかなり広いとはいえず、そしてサプロウとケンジの棲みかが相当離れているとはいえず、彼だつてその通用口の存在を知っているの不思議もない。だとすれば、そこは待ち伏せるには格好な場所のはずだ。サプロウの足は止まった。  
しかしケンジは餌の在り処が隣の敷地内だということは知らないはずだ。もつと近くへ行ってみて相手の顔を確かめてから心配すればいいことだ。取り越し苦労はしない方がいいと彼の冷静な頭脳は判断していた。そうしてその理性に従って行動すべきことを彼自身に命じた。だが「一たび抱いた恐怖の気持は彼の身体を金縛りにし、なかなか開放してはくれなかつた。」 (次号に続く)

# 庄内歴史探訪と最上川下り

恒例となった白門43会の旅行会、今回は山形・庄内地方。山形県内にお住まいの会員、小田治さん、佐藤勝見さんのおふたりには大変お世話になり、参加者24名は深まりゆく紅葉を充分すぎるほど堪能した。

## 10月26日

観光バスで山形(内陸)から酒田(庄内)に向かう。最上川の古口港から12kmを1時間の最上川下り。穏やかな流れだが、時々急に船が大きく揺れたが、船頭さんは女性。方言で話し唄いとて元気が良い。地酒で勢いが付いた数名が船頭さんにジョークを連発。和やかな雰囲気であった。

## 紅葉に歴史を見て

43会の旅行に初めて参加させていただきました。知り合いの女性に「大学の同窓生と旅行に行くのよ。メンバーは殆ど男性らしいわ。」と言ったら、「いいですね。ツアーで女ばかりが多いじゃないですか素敵な人がいるかも知れませんが。」とメールを送ってくれました。現、実際の同行の皆様は、、、。期待どおり、気は優しく頼りになる男性陣に、至れり尽せりの面倒を見てもらった三日間でした。中学高校の続きで、危うく女子大に行くところでしたが、中大に入れてもらって良かったと思っております。酒田、鶴岡は以前にも訪ねたことがあったのですが、南洲神社と湯殿山神社は初めて行きました。亡父の故郷の薩摩藩と庄内藩が激しい戦の後、西郷隆盛の

庄内平野が広がり、白鳥の群れが田地の落穂をついばむ。酒田の本間美術館はかつて北前船で大きな富を得た豪商の別荘。歌人の書、絵画や磁器などの文化財が多数、庭園「鶴舞園」は鳥海山を借景に、北前船が運んだ各地の石などを配した風情。

## 山形旅行での聞きかじり

後澤 節子

今年の旅行はコロナ禍の中、決行できるか心配でしたが、

## 松野下 利代

英断で友好関係を築き、それが現在まで続いている事に驚きました。

また湯殿山神社は、紅葉真盛りの晴天に恵まれて、お湯の湧き出る御神体の大岩を裸足でお参りする楽しい経験でした。社殿での御祈禱も、烏帽子、直垂姿の神主が御幣を振つての払いの後、護摩を焚いて祈禱をして下さったことも驚きでした。

地元同窓生の力強い事業家振りにも感心しました。お土産にいただいた数量限定大吟醸の「大山」を大切にチビチビと飲みながら、楽しかった旅を思い出しています。幹事の方々をはじめ同行の皆様お世話になりました。有難うございました。

武家の住居と商家の住まいが一体となった珍しい建築様式。山居倉庫は酒田港に近く庄内地方の米の保管倉庫。白壁・土蔵造りの倉庫群は壮観だ。全12棟の内9棟は現役の米蔵として使用中。ドラマ「おしん」のロケやJ-R東日本の吉永小百合のボスターで有名。日没に近い光の中、ケヤキ並木を背景に小百合さんになったつもりで写真撮影。



酒田料理「銀のすず」が夕食会場。龍門旅行幹事代表が山形旅行に決めた経緯を説明した。会席料理の品数は12品。質・量とも満足した。(ご飯は一人用の釜で熱々の状態で提供してくれたのは嬉しかった。お米は庄内米でなく、真室川産コシヒカリだった。地酒も「上喜元」など何種類も味わった。

## 10月27日

南洲神社は戊辰戦争で西郷隆盛が庄内藩に寛大な処分をした経緯が分かるゆかりの神社だ。庄内南洲会の水野理事長からお話を聞いた。西郷から教えを受けようとして来た。日本海に面した加茂水族館には50種類以上のクラゲを展示、世界のクラゲ水族館と言われる。形、大きさ、色彩の異なる様々なクラゲに癒された。

鶴岡市内の有名な蕎麦屋「寝覚屋半兵衛」では板盛り5人前の「麦切」というこの地方独自のうどん。モチモチとして美味、お腹いっぱい食べた。

## 善宝寺は曹洞宗の寺院で

問題無く楽しくお天気にも恵まれた2泊3日の旅でした。

幹事さん達に感謝です。我々の世話をしてくれたガイドさんからの話を少し書きます。このガイドさん超可愛い女性で2児のママさん。産休明けでコロナ・ステイホームになり、やつの仕事で我々のお世話。これが終われば冬場仕事が無いそうです。

「ガイドさんからの話」  
1. 方言  
① げずぐだげずぐだってしよわすい  
② さあまずのテレビさ色つだ  
③ つげだのさかもてらんねさげちやちやあべ!!  
④ そんな人に構ってられないのでさつと行こう  
2. 新庄地区を通過していると

5、10段の階段を登ってガラス戸付きの玄関。積雪の為たそうです。庄内山に行くに砂地と松林。ここは玄関に階段は有りません。ガイドさんによると風が強く雪は吹き飛ばすのでさつと行こう。同じ県内です。少し移動したただけでこんなに異なる皆さんの生活の知恵と努力と苦労を感じてしまいました。

私のレポートの役目は、ここまで…。

杉並に住む小3の孫の会社のワークシート「杉並区のはどんな形をしてるでしょうか?」地図を見て「孫の答「ふくざつてことばにできません。」私もこれなんです。今回の旅行も楽しんで言葉にできません、ハイ。

## 山形旅行(鶴岡市・酒田市)に参加して

小嶋 庄太郎

43会の宿泊を伴う旅行に初めて参加させて頂きました。天候にも恵まれた3日間、思い出に残る楽しい旅行でした。

大型観光バスで、最上川下りの乗船場・古口に向かいました。芭蕉の句「五月雨をあつめて早し 最上川」はあまりにも有名ですが、両岸の山々の紅葉を楽しみながらの舟下り、女性船頭さんの軽妙な会話と参加者とのやりとりで大爆笑でした。

船頭さんの最上川舟唄やフランス語の船唄まであり、インバンド客が増え、ここまで来ていることに驚きました。約1時間の舟下りで草薙に着き、酒田市に向かいました。庄内平野は風の強いところで、途中で風力が発電機の大音響が聞こえ、多く見られました。

酒田市内観光では、豪商・本間家ゆかりの本間美術館と本間家旧邸を見学しました。庭園「鶴舞園」は見応えがあり、「日本の大地主」と言われたその財力の一端を垣間見たようです。次いで、連続テレビ小説「おしん」の舞台となった山居倉庫を見学しました。最近では吉永小百合のJ-R東日本のCMでも知られています。

ケヤキ並木の紅葉と倉庫の黒壁のコントラストが何とも素晴らしいです。明治時代の中期に米保管倉庫として建てられ、酒田の発展に寄与しましたが、100年以上経過した今でも倉庫として使用しているとのこと。

(2日目)  
バスが通るにはやや狭い道を通って南洲神社に到着しました。前夜の懇親会で、鹿

児島出身の正野建樹さんより「戊辰戦争の状況と、その後西郷隆盛と庄内藩菅実秀との関係」等について詳しくお話を聞き事前学習が出来ていましたので、南洲神社を訪れた際も庄内南洲会関係者の方の講演をうかがい、「徳神の交わり」「敬天愛人」の精神を良く理解出来ました。善宝寺は激しい海の守護神・龍神を祀る寺として、全国の漁業関係者から信仰をあつめています。五百羅漢をあつめています。五重塔等拝観しました。更に、鶴ヶ岡城近くの致道博物館、藩校致道館、また近くの藤沢周平記念館を見学しました。藤沢ファンにはたまらない所でもあります。

メインイベントは、地元の小田治さんが会長を務める(株)庄内クリエイト工業の見学です。社長であるご子息様より、現在注力されている悪性腫瘍治療装置「アスクーフ8」の説明をして頂きました。この装置は、がん治療法の一つで、高周波を利用して身体深部のがん組織を加温によって、壊死・縮小させる治療方法として開発されたものです。がんに罹ったことのある私にとっても、大変関心を引くものでした。「アスクーフ8」が多く全国の医療機関に設置されることを願っております。

夕食・懇親会はホテルの宴会場で、小田さんの奥様・ご子息も参加され、地元鶴岡の銘酒等をたっぷり頂いて大いに盛り上がり、また玉澤宏さんの演歌の素晴らしい歌声にはしばらく聞きほれてしまいました。

(3日目)  
紅葉の山々を眺めながらバスは路、湯殿山をめざしました。

湯殿山(月山、羽黒山、湯殿山の総称)は古来より修験道の地として信仰されており、湯殿山は奥宮とされています。修験道の霊地であり「語るなかれ」「聞くなかれ」と戒められた神秘の世界です。湯殿山の御神体は、温泉の湧き出る巨大な岩である。ここでは、靴・靴下を脱いで素足となって御神体の岩に上り拝礼、本心に改まる思いがしました。全員が参籠所に集合して「家内安全」「身体堅固」「心願成就」の祈禱を受けました。

祈禱は、祭祀・山伏2名の3名で約1時間執り行われ、神官の詔とも僧の読経とも聞こえるお祈りに続き、山伏の吹く法螺貝が大音量で鳴り響き、護摩の炎が天井高く燃え移らんばかりに燃え盛り、何とも壮麗で厳粛な祈禱でした。最後に、参拝者の名前が1名ずつ読み上げられ、何か、とても清々しい気持ちになりました。

湯殿山を下山、バスの中で、小田さんの奥様から差し入れた美味しい「庄内柿」を頂きました。途中、大宮駅、上野駅、終着東京駅と互いに手を振って別れを惜しみつつ家路に着きました。この旅行で多くの方々とも親睦を深めることができました。このような楽しい旅行には、また参加してみたいなとも思いました。



ま

# このように行われた今年の定時総会

## 八東 一郎

43会の定時総会は今年の7月3日（金）に、いつもの上野精養軒での開催を目指して担当の総務委員会が前年秋から準備を進めていました。43会行事も予定通りに進行して、2月1日の両国国技館での「豪風断髪式」、2月5日の役員会、2月7日の上野東天紅での「新春の集い」までは順調に流れていました。ところが中国で急激に感染が広がっていた。新型コロナが、2月に横浜に寄港した大型クルーズ船での大発生を機に日本各地にも広がって大騒動になったのです。43会行事も3月6日の「歌舞伎鑑賞会」、4月1日の役員会と次々に中止となりました。

ここに至って定時総会をどうするかが問題になり、急遽会長・幹事長・総務委員とで対応を検討することになりました。学員会その他の支部の動向を聞くと、「何が何でも開催する」という会や「9月に延期する」という支部もあり、バラバラに対応しているようでした。43会は単なる友好団体なのでそれほど難しく考える必要はないのですが、会長以下の執行部は総会で承認された事業計画・予算に従って会を運営しなければならず、事業年度は4月から翌年3月までなので、もし9月まで総会を延期するとすると半年の間は総会の承認なしに会を運営することになってしまうのです。また、開催を強行した場合、我々のような高齢者が感染した場合には重篤化する可能性があります。高年齢者といわれていたのが極めて危険なことになる。会員の親睦を目的とする会則に反することになります。そこで我々が出した結論は、総会を会員が集まって審議する形式ではなく、書類

行われ、結果は回答のあった39名の賛成を得ることができました。

次に、全会員に対して会議方式による総会をやらないこと、各議案を議決権行使書で承認して欲しいことなどの資料を5月29日に発送。そして6月20日に回答書の集計を行いました。結果は発送339名のうち207名から回答があり、そのうち204名から賛成を得ることができました。この結果は清水会長名で全会員にフィードバックされました。

こうして今回のコロナ禍における43会の定時総会は全て終了しました。コロナの感染を避けるため、少数のメンバーで精力的に作業を進め、完璧とは言えないまでも何とか危機を乗り切ることができました。多くの役員、会員は知らないうちに物事が進んだと思うかも知れませんが、実際には以上のような経緯で進んだのです。43会には今後もこのような訓練が訪れるかも知れませんが、その時も今回同様に乗り切ることができると信じています。

# 会員の著書

## 「上杉鷹山とイノベーション経営」

田中宏司さんほか 著作  
2020年「同友館」発行

会員の田中宏司さんが特別首席研究員を務めるBERC（経営倫理実践研究センター）のメンバーとともにCSRの3部作（洪沢栄二、二宮尊徳、石田梅岩を扱う）に続いて刊行した、奥州米沢藩第9代藩主・上杉鷹山を現代経営の視点から表した著作である。

言うまでもなく鷹山は「改革者」であるが飢饉の時代に生き抜き、自身も徹底的な節約に取り組み、質素儉約、殖産興業、田畑開墾などでリーダーシップを発揮し、それも支配型リーダー（支配を基本精神とする）ではなく利他が基本精神であり相手に奉仕し、相手を導く者である「サーバントリーダー」であった。鷹山の人生


「仁」として君主としては「礼」をモットーとし、師に対しては「孝」を重んじ、親に対しては「孝」が根底にあったのだ。9歳で養子となり15歳で上杉家の家督を継いだ鷹山には前述の3人とも共通することはいくつかみられるが大きなものはそれぞれに力強いサポーターがいたことだろう。鷹山が13歳の時代から指針をあたえた細井平洲、また竹俣当綱、菓科松柏などももし不在であったら後の鷹山はあり得なかつたのではないか。

家臣の心を良くつかみ、藩の収支を公開したりで民がよく鷹山に従った。天明の大飢饉を乗り越えた後、若くして隠居（33歳）の後も請われて長い間藩の改革に携わ

## 上杉鷹山とイノベーション経営

田中宏司 水尾順一 嶺生俊夫 編著

イノベーション経営



上杉鷹山とイノベーション経営

為せば成る。為さねば成らぬ。何事も成らぬは人の為さぬなりけり。

「参考文献」の豊富さ、すばらしいものがある。執筆した多くの研究者のその過程

（清水 正）

## 活動報告

### 〈白門43会の動き〉

2020年2月 1日 (土) 大相撲、豪風引退年寄押尾川襲名披露	国技館
5日 (水) 役員会・懇親会	小川町・貸会議室 太一
7日 (金) 新春の集い	東天紅・上野店
3月 6日 (金) 歌舞伎鑑賞	ゲスト林家つる子さん
28日 (土) 年次支部協議会	新型コロナウイルスのため中止
4月 1日 (水) 役員会	新型コロナウイルスのため中止
5月 学員会協議会・総会	新型コロナウイルスのため中止
5月 29日 (金) 総会書面審議のための文書を全会員に発送	新型コロナウイルスのため中止
6月 3日 (水) 役員会	中止（書面審議とした）
7月 3日 (金) 総会	
14日 (火) 総会書面審議の結果を全会員に送付	
8月 5日 (金) 役員会・懇親会	一ツ橋ビル、紫紺館椿山荘
10月 7日 (水) 役員会・懇親会	一ツ橋ビル、紫紺館椿山荘
17日 (土) 箱根駅伝予選会の応援（テレビリモート参加）	カメラヤヒルズC.C.
20日 (火) 43会ゴルフコンペ	山形県
26日～28日 秋の旅学会	一ツ橋ビル、紫紺館椿山荘
12月 2日 (水) 役員会・懇親会	

### 本大会に出場決まる 駅伝予選会まで2位に入賞

第97回箱根駅伝の予選会が十月十七日（土）、気温十一度という冷たい雨の中、東京立川市の陸上自衛隊駐屯地で開かれた。43会では毎年、会長はじめ多数の会員が昭和記念公園のゴール会場へ応援に参加していたが、今回はCOVID-19の感染防止のため一般公開は中止、駐屯地の周回コースを周回するハーフマラソンの距離で行われた。

関係者だけしか入場ができず、われわれ学員は各自が自宅で観戦・応援をする形となった（日本テレビが放映）。参加46校が各校12人で走り、合計タイムの上位10校が入賞というルールのおかげで、母校は10位で個人ゴールした注目のルーキー吉居大和君（1年生）の活躍などで1位の順天堂大に次ぎ見事に2位に入賞、21年正月の本大会に94回目の出場をすることになった。

### 令和元年度 白門43会収支決算書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
前年度繰越金	759,472	759,472	0	
会費収入	10,000	6,000	-4,000	年会費延べ→3人分
総会懇親会収入	780,000	766,000	-14,000	(注) 1
「新春の集い」収入	630,000	698,000	68,000	(注) 2
会報発行収入	0	10,000	10,000	広告掲載料5千円/本×2本
その他の収入	108,000	117,165	9,165	(注) 3
預り金	0	164,000	164,000	令和2年度以降の年会費、37人前払い
合計	2,287,472	2,520,637	233,165	

### 令和2年度 白門43会収支予算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

科目	予算額	摘要
前年度繰越金	909,858	
会費収入	464,000	3千円/人×100人+164千円
総会懇親会収入	0	中止（新型コロナウイルス感染拡大）
「新春の集い」収入	630,000	参加費630千円（9千円/人×70人）
会報発行収入	10,000	広告掲載料（精養軒及び東天紅）
その他の収入	120,000	前年度実績並み
合計	2,133,858	

(注) 1. 総会懇親会収入 出席者80→68人、会費720→612、寄付金0→75、キャンセル料0→9、祝い金40→50及び補助金20→20千円  
 2. 「新春の集い」収入 出席者70→69人、会費630→621千円、寄付金0→50千円、キャンセル料0→27千円  
 3. その他の収入 117,165円の内訳 支部活動支援補助金 100,000円、寄付金ほか 17,165円  
 4. その他の支出 143,502円の内訳 祝い金（対白門39、42及び44会）40,000円、年次支部協議会会費 15,000円、事務用消耗品代1,163円、貸室使用費7,095円及びコピー代・郵送料・送料ほか 20,244円  
 5. 次年度繰越金 909,858円の内訳 ゆうちょ銀行の振替受取（払込金受取口座）244,793円、定期貯金 300,000円及び通常貯金 369,149円 並びにみずほ銀行の普通預金 55,916円（注）5  
 「次年度繰越金」は、5,569,994円である。（「白門43会会報」第2号）

<参考> 会員の状況→現会員 345人、自己都合退会会員 123人、死亡退会会員 54人（令和2年3月31日現在）  
 （総会後、会長・幹事長と会員名簿照合のうえ、最終確定）

### 編集集「後記」

数百年に一度の奇禍とも呼ばれている新型コロナウィルスに揺さぶられたこの1年間でした。この会報を通して全国の43会の絆がさらに高まってゆくことと思います。皆様どうぞ良い年をお迎えください。

### 大谷隼夫さん 母校の理事に就任

会員で初代の43会会長である大谷隼夫さん（現在、幹事）が20年6月20日、母校中央大学の理事に就任した。大村雅彦理事長の下で28人の役員の一員として3年間の任期を務める。大谷さんは弁護士、現在原子力損害賠償紛争審査会特別委員を務めている。

### 川野健司さん 法学部政治学科出身

川崎市多摩区在住  
2019年8月逝去

### 森川 忠さん 法学部法律学科出身

船橋市三山在住  
2020年1月逝去

### 伊藤 敬さん 商学部経営学科出身

山口県宇部市在住  
2020年9月逝去

### 秋山正徳さん 理工学部電気工学科出身

小田原市在住  
2020年10月逝去

「白門43会報」の発行に尽力された方々に感謝を申し上げます。